

事業の実施状況等について

【生野区】 (受託者等:株式会社コリアジャパンセンター・大阪NPOセンター共同体)

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析(年度当初・期末)(受託者が記入)

項目		
自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」についての分析	地活協それぞれの地域によって課題が異なり、力を入れて取り組んでいきたいことも異なっているにもかかわらず、年間の事業を毎年同じように繰り返している現状が見うけられる。課題を見つけて、その解決に向けて動いている地域はいいが、課題もわからずに従来の前例踏襲主義で同じことを繰り返していくと次第に地域の士気も落ちていき、活気がなくなってきてしまう。そうならないためにも地域内で何でも話せる雰囲気作りをし、皆で課題を解決していくことが必要になってくる。
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」についての分析	今年度は、昨年度より外国籍の方が地活協の事業に関わってもらうことができた地域が増え、新たなつながりを拡充することができた。これをステップに、事業でつながるだけでなく日常生活においてもいろいろつながって、生野区で楽しく生活してもらえるよう支援していく必要がある。また、現在地活協の活動は殆ど高齢者によって支えられているため、従来の活動をすることで精いっぱいになってしまう。今後のことを考え新たな人材へスムーズなバトンタッチができるよう、支援していく必要がある。
	(3)「Ⅲ 組織運営」についての分析	地活協ができて7年経つが、地域の中で地活協という組織を理解できていない方もおり、役員など限られた方だけで運営しているのが現状である。地活協というより、まだまだ連合や町会を主体・中心に考え、活動を行っている傾向も見受けられる。地活協の役員＝町会の役員という流れができあがってきてしまっているのが原因でもあると思うので、地活協の組織を再考する必要がある。現在、1つの地域が地活協の組織運営について地域で会議を行っているので、これを区のモデルケースとして成功させ、区に波及させていきたい。

2 支援の内容及び効果等(1) 上段は受託者等が記入、下段は区が記入)

- (※) I・地域課題やニーズに対応した活動の実施 ・法人格の取得
- II・これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大を含む)【地域活動協議会内部】
- ・地域活動協議会を構成する活動主体同士との連携・協働【外部との連携】 ・II 地域公共人材の活用
- III・議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営 ・会計事務の適正な執行 ・多様な媒体による広報活動

項目(※)	I	II	III	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
事業の実施状況及び効果 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	○	○		地域に企業や団体・個人を繋げる、まちセンの集大成「つながりリスト」	これまでに支援員が築いてきたいろいろなつながりを、今後も地域で活かしていただくために棚卸しをし、見える化して「つながりリスト」を作成する。 3月に地域の方とつながりリストに掲載されている企業や団体や個人をつなげるイベントを行う。 3年間の振り返りができると共に、「つながりリスト」として見える化する事は支援メニューとしても活用できわかりやすいと思われる。	3月につながりリストのイベントを行うことによって、より身近につながりリストの方々を感じてもらい、その場で直接つながることができる。 つながった後は、区やまちセンを通さずに自分たちだけでさらなる活動の拡がりを展開していけるようになる。 直接イベントでつながってもらう事や、リストを各地活協に共有する事で自律に向けた支援が期待できる。	今までは、まちづくりセンターが地域と企業等との橋渡しをしていたが、地域が「何かをしよう、何かをしたい」と思った時に「つながりリスト」を独自で活用しているいろいろな方とつながっていけるよう、使い方等を丁寧に説明し、細やかな支援をしていく。 最終的には地域全体が中間支援の存在になっていくことが目的である。 地域活動協議会の自律を第一に考えている。この「つながりリスト」をきっかけに、地域活動協議会が中間支援の役割を担っていけるよう、サポートをお願いしたい。
	○		○	「地域虎の巻」事業・虎の巻会議 ・地域課題の発見・共有・解決に向けた会議	1つの地域より地活協の組織を見直したいと依頼があり、まずは大きな単位で会議を行い、地活協の理事や各団体のリーダーに集まっていたき、地域ではどのような事業を行っているかの洗い出しを行い、自分の地域の実情を実感してもらった。 組織を見直し、地域の課題や実情に沿った組織に改めることは、継続的に運営をしていくためにも必要であるため評価できる。	小さな単位での会議を行う前にまず全体での会議を行い、地域の状況を解ってもらったうえで、各団体等に分かれて小さな単位での会議を行っていき、忌憚なく、自由に意見交換をしていただくことで、その結果が地域の大きな変革につながっていく。 縛りがない、遠慮もない小さな場を作り、まずは自分たちで何かを成し遂げたという実感を感じてもらい、成功につなげてほしい。 また、他の地域に拡げることで大きな効果が期待できるので、引き続き区と連携し進めてほしい。	大きな単位での会議を行い感触がよかったので、今後の流れとしては小さな単位での会議に移行をし、地域が目指す組織の見直しができるよう、結果が出るまで、細やかにしっかりと支援をしていく。 また、別の地域でも他団体との連携ということでの虎の巻会議が開催出来るようなので、スムーズにいけるよう支援していく。 変化を嫌がる地域を説得するのが大きな課題である。なぜ地域虎の巻会議が必要かを理解して、地域課題を認識、共有し、課題を解決するために行動を実践する、というサイクルを自主的に運営できる地域をつつでも多く増やせるよう、引き続き区と協力しながらサポートしていただきたい。
			○	生野区の未来を想う交流会「まちカフェ」 ・生野区の活性化のアイデアを語り合う中で担い手を発掘し、地域で活躍できるよう支援していく交流会	毎月第3土曜日 全5回開催(通算44回) 例)IKUNO動画部企画 それぞれの会開催 謎解き街歩き 新たな担い手発掘につながる取組みとして継続して実行している。 情報発信の拠点と作るなど新たな動きもできてきている。	開催場所を固定化した事で、地域に根付いた活動ができるようになり、地域の方にも気軽に寄っていただき情報交換ができるようになってきた。また毎回のまちカフェで、地域の方に自分の得意分野や取り組んでいることなどを話してもらい、「それぞれの会」を始めた。様々な話を聞くことができ、参考になると好評である。 活動場所を固定化した事で様々な人が参加しやすくなり、新たな担い手の発掘にも繋がっていると思われる。	地域の方が気軽に参加できるコンサートを開催したり、大学生が拠点を使得って地域の方と交流するイベントを企画する等、徐々に拠点を知らせてもらえるようになってきたので、今後は情報発信基地や交流スペースとしての役割を十分に発揮していけるよう、より一層周知していくことが必要になってくる。 それぞれの会で発表してくれた方が、今後地域とつながり地域で活躍できるようにしっかりと支援していくことも必要になってくる。 新たな拠点を使ったイベントを行うことで拠点を知らせてもらえるようになってきたので、引き続きイベントの実施や情報発信基地、交流スペースとしても使うなど幅広い活用を考えていってほしい。 またこれまでに「まちカフェ」では「いくすく子ネクト(子育てママ)」「サラダポウルプロジェクト(外国人)」が新たな担い手として地域に繋がられているので今後もそれぞれの会で発表してくれた方を地域へうまく繋げていけるよう支援をお願いしたい。
	○		○	新たなCB/SBの模索 ・「ネスレ」マチエコ便の試し運用	上記記載の「活動拠点」で試し運用。ネスレ日本株式会社と協力のもと、地域内のコーヒーなど定期便の購入者の商品を配達し、月間で15000円程度の収入があった。地域の収入とつながりづくりに寄与できるのではないか？との思惑で試し運用を行ったが、地域の担い手が行うにはタブレットを利用するシステムが複雑で、また、顧客からのクレーム対応など対価に見合わないため導入を見送った。 今回の試し運用は見送る事となったが、今後も地域に提案できるように、この取組みは引き続き実施していただきたい。	今回の試みのように企業側にも「地域に広げることを前提での試し」と伝えて試用することで得られる経験値はあった。同様の考えの企業など「協働先」を探す手掛かりとなる。パラパラに行っていることを「まとめる」ことで、利益を生み出すヒントとなった。 CB/SBのメニューも行き詰まり感があり、新たな取組みの発見は貴重なため、企業側と調整し、地活協にとって取り組みやすいものになるよう事業構築してほしい。	この取り組みを「試用」できる柔軟性を地域にも作っていかねばならないという「気づき」と、今回上手くいかなかった反省を、まちセンや区担当者交えて行う中で、新たなCB/SBのアイデアも出てきた。生野区がかつて日本一を誇った地場産業である「ヘップサンダル」の製造過程の一部を地域で担えないか？担い手を探していて、地域活動に理解のある「ヘップサンダル会社」があり、交渉・企画を開始した。このように今後も新たな施策のアイデアを作り続けたい。 地域活動協議会が持続的に活動していけるようCB/SBの取組み等をはじめとした自主財源の確保に向けて、今後も、地域、区役所と情報共有を行い試し運用を行っていただきたい。 またCB/SBの意義、重要性を伝え、補助金に頼らず自律的な組織運営ができるようサポートをお願いしたい。
	○	○		多文化共生事業・異文化交流事業による担い手づくり支援	・IKUNOサラダポウルプロジェクトの事業支援 多文化共生農園での交流会(2回)・日本語教室(20回) IKUNOサラダポウルプロジェクトin聖和保育園(4回) 中国語広場(5回)・BBQin河内長野・マイヒストリー会 ・異文化交流事業 異文化交流in北巽(2回)・クリスマス会in舍利寺・ 生野区一斉パトロール 多文化共生については、高齢者向けの取組み、小学生向けの取組み、子育てママ向けの取組みなど、幅広い対象に向けて事業の創出・支援を行っている。外国人支援員も地域に浸透してきており、多文化共生に対する興味を持つ地域が増えている。	IKUNOサラダポウルプロジェクトは組織化以降も様々な事業を行い、順調に運営できているので、これからも見守り、支援していく。 今年度新たな地域での異文化交流事業を考えているので、事業が終了してからもうまくつながっていけるように細やかな支援をしていく。 それぞれの取組み内容について、参加者からの評判はよく、サラダポウルプロジェクトについても組織化されるなど順調に進んでいる。引き続き外国籍住民が多いという区の特徴をチャンスととらえ、多文化共生を地域に浸透させ、新たな事業展開ができるよう、支援をお願いしたい。	IKUNOサラダポウルプロジェクトの活動は順調に運営できているが、来年度から代表が交代するので、交代してからも変わらずに地域との橋渡しとしての活動ができるよう、支援していく必要がある。 地域の方からの異文化交流を行いたいとの声を大切に、交流を機に地域内で「協働」できるような体制を構築し、外国籍住民と日本人住民の間で生活面での悩み等、気軽にコミュニケーションが取れるような支援を行っていくことが必要。 IKUNOサラダポウルプロジェクトの代表が交代しても変わらず支援できる体制を構築し、引き続き地域とのつながりのきっかけづくりを行ってほしい。 地域が多文化共生に対する興味を持ってきているので、イベントの実施だけで終わらないように、地域の新たな担い手として参加できるよう取り組んでほしい。

3 支援内容及び効果等(2)(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見	
事業の実施体制等	(1)自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	次世代につながる地域活性化に向けた取り組み支援	いくすく子ネクトは生野区で「子育てママさん」のつながりに大きな貢献をしてきたが、メンバーの環境も変わり、発展的解散に向かっている。現在、歌や演奏などの芸を持った人が地域につながるキッカケになる団体「たこ源ファミリーバンド」を開始している。地活協から行事を盛り上げるために賑やかして人を紹介してほしいと依頼があれば、「たこ源ファミリー」に委託し、所属している音楽家の方々に交渉してもらい、試験的に地域に派遣している。 色んなアイデアを出して取り組んでいる事が評価できる。	派遣された音楽家の方々の中には、その後も地活協の行事に参加し、地域の方々と顔見知りになった者もいる。 派遣をきっかけとして、地域へ担い手や協力者をうまく繋がられている。	地活協と音楽家の方々が一日だけの「つながり」にならないように継続して、「つながれる」ことができる仕組み作りが必要である。 地活協への派遣実績を上げていき、派遣ルールをシステム化し、地域へつなげる取り組みとしてほしい。
	(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	職員のローテーションについて	業務責任者兼常勤アドバイザー1名・地域まちづくり支援員3名・スーパーバイザー4名・外部アドバイザー2名 得意分野を持つ支援員がそろっており、地域からの様々な要望に対応できる体制となっている。	地域まちづくり支援員3人は各担当地域での課題等があれば常勤アドバイザー、スーパーバイザー、外部アドバイザーにすぐに相談し、解決に向けて動くという流れができています。 支援員同士の連携が密に行われており、迅速な対応につながっている。	現在の体制が非常にいい状態で活動できているので、この体制を崩さずに今後も地域の支援を続けていけるよう、スーパーバイザー・外部アドバイザーと更に連携を密にしていけることが必要。 支援体制は充実しており、まちセンとしての対応力は着実に向上している。これまでの経験・専門性を活かし、より多くの実績につなげてもらいたい。
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	外部アドバイザー、スーパーバイザーとの連携強化及び内部人材の育成	支援員間では毎週1回のミーティングで常に情報共有を行い、細かく連携をとれるようにしている。そこにスーパーバイザーも入ってもらい、各自が持っている専門性や経験を活かしたアドバイス等をしていただき、スムーズな支援につながっている。 担当地域の枠を超えて情報共有等を行うことで、柔軟な支援ができるようになり、各支援員の得意分野を活かした多角的な支援が可能となっている。スーパーバイザーには生野区の地活協で事務局を担っている方も在籍している。	スーパーバイザーが個々の活動にもより一層力を入れているため、支援員と連携をとりながら共に今まで以上の細やかな支援を行うことができるようになった。 様々な地域の要望に迅速かつ細やかな支援が行えるようになってきている。また、支援員間の連携が密に行われており、お互いにフォローできる体制となっている。区とまちセンが地活協に対して何か支援を進める際には、地活協側がどのように思っているか、スーパーバイザーから貴重な意見をもらうことができ、スムーズに進めることができる。	スーパーバイザーは地元生野区に住む専門的な知識を持った方なので、まちセンの支援がなくても地域の中においてその知識を活かし中間支援的な立場で活躍できるような体制を構築していくことが必要。 外部アドバイザーやスーパーバイザーとの連携により支援体制は充実しており、まちセンの対応力は向上している。スーパーバイザーが生野区在住である利点を生かし、地域に溶け込み、地域の課題を地域で解決できる体制の構築につなげてほしい。支援に関しては、一方的にならないように、区とまちセン、地活協双方にとって有益になるように進めていく。
	(3)区のマネジメントに対応した取組	「区担当者」と「まちセン支援員」の役割分担の明確化	月2回の「区担当者」との打ち合わせと月1回の「ブロック担当者」との打ち合わせ及び常時連携や情報共有ができるような体制をとり、役割分担を明確化している。 区とまちセンの役割分担は明確にされており、それぞれの役割分担や支援状況は、定期的な打ち合わせにより情報共有が行われている。	区担当者・ブロック担当者とまちセンが随時連携・連絡をとっていることで地活協の課題等が出てきたとき、それぞれに明確化された役割で解決に向けての動きをとることができる。 情報共有が密にできており、役割分担が明確にできているため、地域課題に対する分析がそれぞれ違った視点で行うことができる。	区担当者、ブロック担当者との連携は密にできており、役割分担もできているので、現在行っているまちセンの支援が何のためにしているか、何を目指しているのかをその都度お互いに確認し合いながら同じゴールに向けて進んでいくことが必要。 めざすゴールに対して、区とまちセンの支援の進め方の認識を共通にするとともに、より良い支援ができるよう連携を強化し、情報の共有、支援内容の検討を行ってほしい。

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援策(取組)名称	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
「協働は掛け算」 「10年後へのバトンタッチ」 「地域が中間支援」の実現	「つながりリスト」 「ニュースレター」	ニュースレター5回発送 つながりリスト配布(3月予定) つながりリストイベント3月開催予定 これまでまちセンと関わりのあった人材を中心にリストを作成し見える化する取組は、地活協にとって他の人材とつながることは、開かれた地域づくりへのきっかけにもなると考える。	地活の方々につながりリストを配布する事により、地域の人達が企業、団体、また個人の活動家を知る機会になり、いろいろな情報が入ってくるようになる。また地域のことを知ってもらう機会になり、協働して地域課題解決への起爆材になる可能性を秘めている。3月には地活協の人がつながりリストに載っている人たちと会って、話す機会を作るイベントを開催する。 つながりリストは、作って終わりとならないように今後の活用に向けた的確なフォローアップにつなげてほしい。	両方に要望にそぐわないミスマッチはマイナス効果になるので、つながりリスト制作に確かな情報を掲載しないとイケない。 つながりリストに正確な情報を掲載することはもとより、地域のニーズを的確に把握し、要望に応えることができる情報を提供することで、地域課題を地域で解決していけるように支援を行ってほしい。
「担い手育成」	「連続テーマミーティング」 「まちカフェ」	連続テーマミーティング4回開催 まちカフェ毎月第3土曜日5回開催 昨年度から継続している取組みのほか、地活協の関係者が中心となって開催する連続テーマミーティングにより、他地域との情報交換を行うなど、様々な手法で、担い手の育成につなげている。	連続テーマミーティングの最初の3回は、「子育て」「防災」「一人暮らし」をテーマに議論し、最後の回は連続テーマミーティングにおいて最大のキーワードである「担い手」を議論した。他地域の意見を開けたことは各地域にとってプラスになった。 「まちカフェ」「連続テーマミーティング」を両輪とし、地域活動の担い手確保、育成という課題解決に積極的に取り組んでいる。	議論に参加しても、ミーティングで得もった事を地域でどう活かされるかが大事。 これからも地域で行った、よい事例は他の地域にどんどん紹介していくことが必要。 連続テーマミーティングでは、活発な議論と情報交換が行われた。これをきっかけに地域が変わる意識を持ってもらい、「地域虎の巻会議」や、地域公共人材の活用につなげてほしい。
「広報に関する」支援	「合同広報事業」 「広報専門アドバイザー」 「IKUNO動画部」	ライン公式アカウント5地域開設 動画教室1回開催 プレスリリース1回実施 区の地活協PR掲示板リニューアル 地域の実情やレベルに応じた広報支援を行っている。また、IKUNO動画部が、地活協の事業だけでなく他の事業についても発信することで、今まで知らなかった情報を知ることができ、広報の可能性や手法について地域に示している。	ライン公式アカウント開設により広報チームを作り、その中に今まで地活協の活動に参加していなかった人たちが、参加した地域もある。 プレスリリースという新しい広報の仕方を地域に紹介し、実施した。 新たなターゲットに絞って広報することで、新規参加者や担い手発掘につながる可能性もあり、その効果に期待している。	登録者はまだ少なく、ライン公式アカウント自体のPRが必要である。プレスリリースはまだ難易度が高く、今後勉強会などを開催していく必要がある。 地活協をPRする掲示板をリニューアルしたが、今後地域でより活用してもらえるよう、細やかな支援をしていくことが必要。 様々な世代の登録者を増やすことで情報が拡散されると思うので、SNSなどを用いて地域を支援していただきたい。 プレスリリースについては、難易度が高い分、地活協の認知度が上がり、その効果も大きいと考えられるため、今後も継続して行ってほしい。